

る導犬ものがたり

このビデオは、1996年12月から1998年9月にかけて、日本テレビの「ズームインサタデー」(土曜朝7時から9時放送)で10回に分けて放送した番組「愛と涙の盲導犬物語」をまとめたものです。

とかく家に閉じこもりがちになってしまっていた視覚障害者の方々にとつて、盲導犬は生活範囲を広げてくれたり、生きがいを与えてくれる、とても意義のある存在なのです。白杖で歩くときは常に緊張を強いられ、初めての場所にひとりで出かけるのは大変です。しかし、盲導犬といっしょにいれば、危険は盲導犬が回避してくれるし、道を間違えても「ホーム」といえば家まで連れて帰ってくれる、白杖では考えられなかつた散歩もできるようになります。

その盲導犬の一生は、意外と知られていません。盲導犬は、多くの人の愛情を受け、出会いと別れを積み重ねてその一生を過ごします。このビデオでは、盲導犬の一生をなぞりながら、人と盲導犬のきずなを描いていきます。

スタートは「ブリーダー」と呼ばれる繁殖犬ボランティアです。この方々は、誕生から45日間、将来盲導犬になることを期待されているラブラドールレトリバーを育てます。授乳やトイレの世話など、眠れない日々が続き、小犬としては最もかわいい盛りに「パピーウォーカー」にバトンタッチ。

「パピーウォーカー」は「ウェイト（待て）」や「シット（座れ）」などの基本的なしつけと「人のために働くのは楽しい」ということを教えるボランティアです。1年間、愛情を降るように注ぎ育てるパピーウォーカーには「小犬に名前を付ける権利」があります。自分たちと生活を共にした小犬が立派な盲導犬になることが、彼らの誇りなのです。

そして、いよいよ盲導犬訓練所での本格的訓練です。ここでの最終訓練は「不服従訓練」。ご主人は「ゴー」と言っているのにあえて行かない。音では判断できない危ない状況を自分で判断するという大変高度な訓練を経て、視覚障害者のもとに引き取られるのです。厳しい訓練を経て盲導犬になれるのは、わずかに5頭に1頭くらいの割合でしかありません。

現在、盲導犬を必要としている視覚障害者の方は全国に約1万人。しかし、盲導犬の数は約800頭。圧倒的に足りません。さらに、育成に携わる多くの人はボランティアで、訓練所も寄付に頼っているのが現状です。

少しでも多くの人に盲導犬の重要性が伝わることを願っています。

中川 幸美

(なかがわ さちみ クリエイティブ ネクサス プロデューサー)

もう どう けん 盲導犬の一生



はんしょく 繁殖犬ボランティアとの生活 誕生から45日間

生まれてから45日間は繁殖犬ボランティアのもとで育てられます。

ふみきり
踏切の音やかみなりの音、小犬のときからいろいろな騒音に慣れておかなければなりません。

くんれん
盲導犬となるための訓練は、こんなに小さくとも、もう始まっているのです。

パピーウォーカーとの生活

1歳くらいまで

パピーウォーカーは、できるだけ犬と一緒に過ごし、たっぷりと愛情をそいで、人間に対する信頼を育てていきます。

盲導犬訓練所

2歳くらいまで 約1年間

1歳から2歳までの約1年間、各地の訓練所で盲導犬になるための本格的な訓練を受けます。

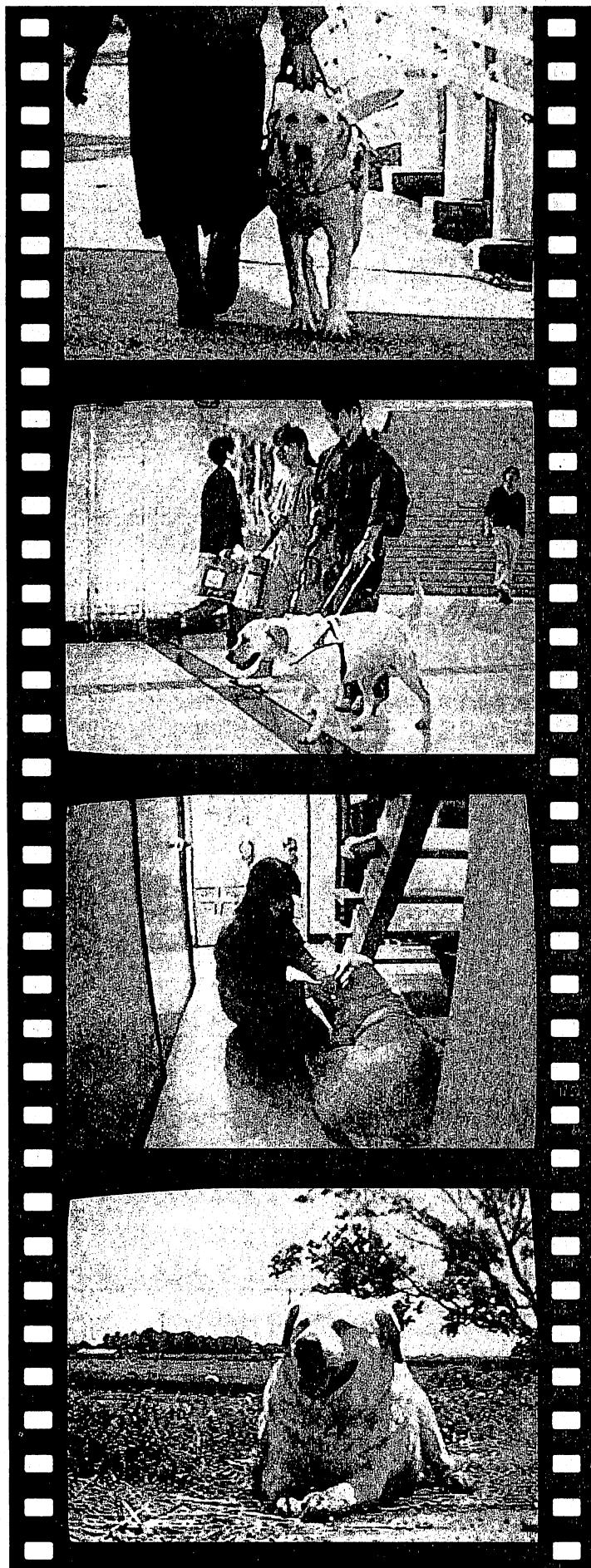
盲導犬の役割

盲導犬の役割は、大きく分けて二つ。

○1つは、ご主人の指示にしたがって安全に誘導すること。

○2つめは、自主的にご主人を危険から守ること。

厳しい訓練を乗りこえて盲導犬になれるのは、10頭のうち、2,3頭の割合でしかないのです。



盲導犬として

12歳くらいまで およそ10年間

盲導犬の存在は単なる目の代わりではありません。そんさい人生のパートナーとしてかけがえのない存在なのです。

盲導犬に出あつたら……？

ハーネスを付けているとき、盲導犬はお仕事中。

声をかけたり、さわったり、えさをあげたりしてはいけません。

盲導犬のおかげで安心して行動することができます。

道を聞かれたら……？

盲導犬の反対(右)側に立って、ひじのところを持ってもらって誘導します。または目のみえない人の後ろから声をかけて誘導します。

いんたい 引退

盲導犬が盲導犬として働く肉体の限界はおよそ10年。その後は他の人に引き取られるか、そのままその家で年をとるかどうかの道を選ばなくてはなりません。

よせい 余生

たいえき退役犬ボランティア、盲導犬訓練所など

引退した盲導犬は退役犬ボランティアや盲導犬訓練所にひきとられて、のんびりと余生を送ります。